

メッセージ おはようございます。皆さんお元気ですか。今日もそれぞれの場所にて礼拝しましょう。

最初にお祈りします。天のお父様、神様の御名を賛美申し上げます。世界中のコロナ禍の感染状況が芳しくありませんが、一日も早く安全に生活できるように終息へと神様の癒しをお祈りいたします。今、リモート礼拝ですが、お一人お一人を祝福してください。神様のみ言葉によって励まし、慰め、力をお与えください。主の御手におゆだね致します。イエス様のお名前によってお祈り申し上げます。アーメン

私は普段2か所のNPO法人に所属しています。一つのNPOはヘレンケラーのように目が見えず、耳が聞こえない盲ろう者のグループホームです。もう一つは身体障がい者への居宅介護事業所です。障がい者は不自由だと思う方が多いでしょう。それは、健常者の速度や可能性などが基準になっているからですね。

30年ほど前でしょうか。大阪のストレッチャーを利用している男性ですが介助者なしで外出されました。道行く人に声を掛けて、「どこまで行かれますか？」返答された方が同じ方向であれば「どこどこまでストレッチャーを押していただけませんか？」とお願いし、その方法で目的地へ行かれました。一人では行けませんが時間をかけ、何人もの協力を得て目的を達成されたのです。これは不自由それとも自由どちらでしょうか？

また、モンゴルの乗合タクシーでの体験です。ウランバートルへの乗合タクシーの乗客に警察官がいて「仕事が終わるまで待ってほしい」と言われ、乗客10人ほど乗せたタクシーは警察署の前で一時間程待ちました。だれも文句を言いません。イライラしたのは私ぐらいでしょう。そんな私に対してある時ダダル村から自分の町へ帰るときに、土曜日の午後に出発するタクシーがありました。私は日曜日にダダルの教会に出席し礼拝後の帰宅を希望でした。「日曜なら乗りたいけれど」と連絡をしたところ、運転手さんが乗客に連絡して、皆さん一日延期してくださいました。日本ではありえないと思いますが、モンゴル人は遊牧民だから時間の感覚は違います。国民性や経済、医療、教育、倫理、宗教観などで基準は変わりますね。

では、私たちの信仰生活にはどのような基準があるのでしょうか。今日のみことばは第二コリント 13章 5～8節です。

コリント人への手紙の著者はパウロですね。第一の手紙を書いた理由をご存じの方が多くでしょう。当時のコリント教会は乱れていました。外部の人から「あれがクリスチャンか」と言われるような状況でしたので、パウロが喝を入れたのですね。

パウロは第一の手紙に非常に強い口調で警告しました。その手紙を読んだコリント教会の兄弟たちが、忠告に従い、行為を改め、教会が良くなってきたと

いう知らせを受けたのです。それで、パウロは教会を訪問したいと思い、「会った時に再び叱責するのではなく、あなたがたが変えられたことを神様に感謝できるように。」と前もってパウロの思いを書いたのが第二コリントの手紙です。

では、13章5～8節をお読みします。

- 13：5 あなたがたは信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい。それとも、あなたがたは自分自身のことを、自分のうちにイエス・キリストがおられることを、自覚していないのですか。あなたがたが不適格な者なら別ですが。
- 13：6 しかし、私たちは不適格でないことが、あなたがたに分かるように、私は望んでいます。
- 13：7 私たちは、あなたがたがどんな悪も行うことのないように、神に祈っています。それは、私たちが適格であることを明らかにしたいからではなく、私たちが不適格な者のように見えたとしても、あなたがたに善を行ってもらいたいからです。
- 13：8 私たちは、真理に逆らっては何もすることができませんが、真理のためならできます。

5節に「あなたがたは信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい。」とパウロは問うています。「私の信仰はこれでいいのか」と振り返って検討して足りないなと思ったら、どうしたらよいかを考えなさいということが吟味するということです。その時、何を基準にして吟味していけば良いのでしょうか。イエス様と自分がどういう関係にあるのかを知ることです。「自分のうちにイエス・キリストがおられることを自覚していないのですか」とみことばは続きます。あなたのうちにイエス様がともにおられるのです。どのようなイエス様がともにいてくださるのでしょうか。

罪のないお方が全世界の人々の罪の身代わりになって十字架上で死に、葬られ、三日目に甦られたお方です。このお方イエス・キリストを自分の罪のために十字架で死なれたこと、葬られたこと、三日目に甦ってくださった救い主と信じた時にその人の心に入ってくださいなのです。

そして今も生きておられるお方、生けるキリストがあなたのうちにおられます。この生けるキリストが基準です。このお方に対してどんな生き方をしているかです。生けるキリストがともにおられることを自覚していれば、問題が生じても信仰に生きていることが分かる行動となりますね。

それとも不適格な者でしょうか。

ストレッチャーの男性を道行く人が見て、この人は歩けないダメな障がい者だと思う人たちもいるでしょう。ある人たちは気の毒に思い、この人のために手助けをしようと思うでしょう。また、関わりたくないと思う人たちもいるでしょう。それぞれの価値観で行動が異なりますね。

では、生けるキリストがともにおられる人はどんな行動でしょうか。

先ず、神様がこの人を愛しておられることを感じるでしょう。そして、神様の

愛に押し出されて手助けをするのではないのでしょうか。
あなたならどうしますか？ 周囲の目が気になりますか。 損得を考えますか。
押しあげたいけれど時間がないとか、他の人がしてくれると思いますか。
嫌々ながらではなく、神様の愛を持って行動できると素晴らしいですね。
生けるキリストがともにおられれば、神様が喜ばれることを、神様のみこころ
を行おうとするでしょう。

6節はパウロたちのことですね。第一の手紙で厳しい警告をしました。コリントの兄弟たちを叱責しながら自分たちはどうなのか。「私たちは不適合でないことが、あなたがたに分かるように、私は望んでいます。」
不適合な人から警告を受けたくはないですね。パウロたちはコリントの兄弟たちのために何をして、不適合でないことを分かってもらおうとしているのでしょうか。

それは7節にコリントの兄弟たちのために祈っていることが書かれています。パウロは「私たちは、あなたがたがどんな悪も行うことのないように、神に祈っています。」と。

「どんな悪も行うことのないように」とパウロたちは祈りによってコリントの兄弟たちに神様の助けを求めていたのです。

私たちクリスチャンに与えられている武器の一つは祈りですね。

また、警告の裏側にはパウロのコリント教会の兄弟たちへの愛がありますね。切り捨てるのではなく、相手のために祈ることが必要です。特に日本人は排他的な国民性がですから敵対する人に対して快く祈るのは難しいかも知れません。でもあなたのうちに生けるキリストがおられるなら愛を持って祈れるでしょう。

さらにパウロは、自分たちが適格であると証明するのではなく、たとえ不適合に見えようと、コリントの兄弟たちには「善を行ってもらいたいからです。」と切実な願いを訴えています。

私たちは良いことと悪いことの判断はできます。では、いつも良いこと善を行なえるのでしょうか。したくない悪を行っているならそれはなぜでしょうか。問答ではありませんが、「しなければならぬことを行える自由」と「しなければならぬことを行えない不自由」があります。しなければならぬことを行える自由がいつもありますか？ 神様に喜ばれることが分かっているけれど気持ち優先して不自由を選択することはありませんか。また時間や都合を優先することもあるでしょう。苦手なことはちょっと横に置いたりしませんか。その時々によって分かっているけれど結果として不自由を選択していないのでしょうか。私はありますね。みなさんはいかがでしょう。

では、すべきことができる自由はどこから来るのでしょうか。8節に「真理に逆らっては何もすることができませんが、真理のためならできます。」真理に逆らうとは、大きく反逆することだけではなく、当然これは神様のみ旨

と分かっているながらそれを退けることです。

真理のためならできますとは、真理に従ったら力があります。真理に従うことは力の源です。同僚が、先輩が、上司が、だれが何と言おうが真理に従うときに神様は物事を行う力を与えてくださり、思いがけない神様の恵みを経験することがあるでしょう。

但し、法則があります。ヨハネの福音書8章31, 32節です。今週の聖句には32節を取り上げましたが、31, 32はつながっています。

8:31 イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。

8:32 あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

イエス様の十字架の贖いを知り、生けるキリストを基準とする人生を歩もうとするなら、基準を示す大切な導き手は「みことば」です。「わたし」とはイエス様ですね。イエス様のことばにとどまるならイエス様の弟子となり、真理を知り、真理によって自由になれるのですね。日々の生活の中で神様のことばである聖書を心に蓄えて従うなら本当の自由を魂の自由を得ることになります。生けるキリストを基準とするとき、すなわち、みことばを心にとめてそのみことばに従うときに魂の自由があります。

しなければならぬことを仕上げると気持ちいいですね。残しているとちょっと気持ちは沈みませんか。晴れやかな気持ち、本当の魂の自由を日々体験できると嬉しいですね。

結論 あなたの魂は自由ですか、それとも不自由ですか。

自分自身の信仰を振り返りながら吟味してゆきましょう。

生けるキリスト様があなたのうちにおられることを自覚して、

みことばにとどまりましょう。魂の自由を得られますから。

魂の自由があるなら、神様の御心を行うことができるでしょう。

そのような日々を今週も歩めますように願っています。

お祈りいたします。

天のお父様、礼拝を感謝します。私たちにみことばを通して神様が望まれる魂の自由を抱きながら一日一日過ごすことができますように主の御名によってお祈りいたします。アーメン。